

[成果情報名] 鼠ヶ関川と最上川のアユ遡上量の同調性

[要 約] 鼠ヶ関川のアユ遡上量は、最上川のアユ遡上量を反映している可能性がある。

[部 署] 山形県内水面水産試験場資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 研

[キーワード] アユ、天然遡上資源、鼠ヶ関川、最上川、同調性

---

[背景・ねらい]

アユの天然遡上量は年によって変動するが、県内では河川間で同調しているものとみられている。しかしながら、客観的なデータでの整理はなされていない。そこで、鼠ヶ関川と最上川間の同調性について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 鼠ヶ関川の天然遡上量は、潜水目視により推定した遡上数を用いた。
2. 最上川天然遡上量は、毎年、人工アユの放流数量がほぼ一定であることから、同水系の最上小国川の解禁前の友釣り(平成13~20年)及び3箇所(ヤナ、アユ止め(平成17~20年))における天然遡上魚の採捕割合を指標とした。なお、天然遡上魚の判別は、鱗数の違い(側線上部横列鱗数:天然遡上魚 18枚以上、人工魚 17枚以下)に拠った。
3. これら指標と鼠ヶ関川の天然遡上量の関係をみたところ、最上小国川のヤナについては、相関( $R^2=0.1$ )がなかったが、最上小国川の解禁前の友釣り、寒河江川のアユ止め、最上川本流の白鷹町のヤナの3については、相関( $R^2=0.50\sim0.74$ )が高かった。

[成果の活用面・留意点]

1. 鼠ヶ関川の天然遡上の状況で最上川の遡上状況を推測できる可能性がある。

[具体的なデータ]



図1 鼠ヶ関川及び最上川において天然遡上魚の割合を調べた場所の位置

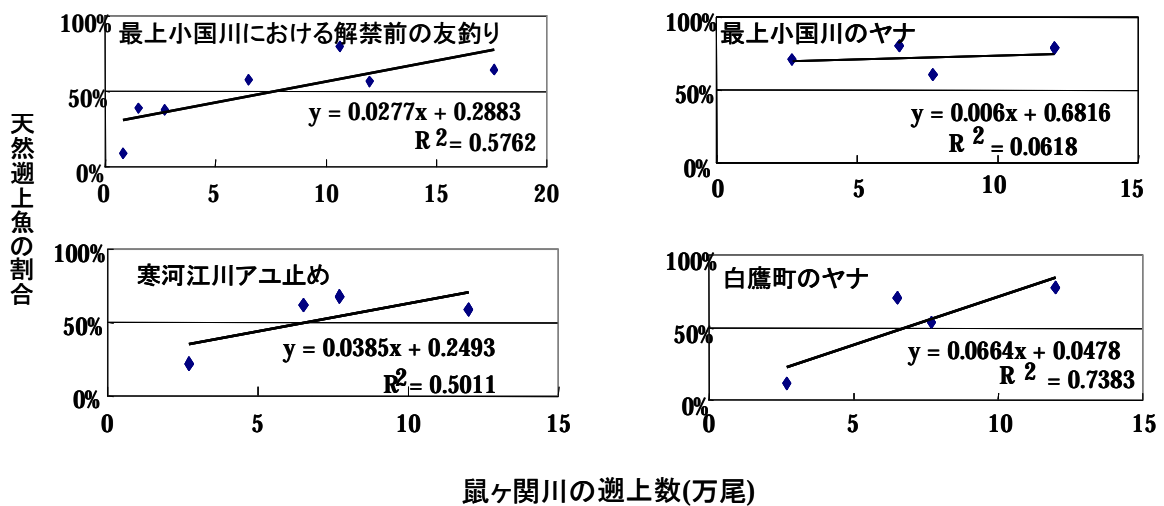


図2 鼠ヶ関川の遡上数との相関

[その他]

研究課題名：アユ適正増殖手法の開発、アユ適正増殖マニュアルの作成  
アユ漁場環境の再生技術開発

予算区分：受託

研究期間：平成 20 年度（平成 14～18, 19、20～23 年度）

研究担当者：高澤俊秀

発表論文等：